

# 東京都立特別支援学校の校長が策定する 学校経営計画の現状と課題について

－学校経営計画の分析を通して－

堀内 省剛      山内 俊久

## 1 はじめに

我が国の特別支援学校は、少子化が進む中であっても、学校数及び在籍する幼児児童生徒数は増加の一途をたどり、その存在意義が顕著に高まっている。また、特別支援学校は、学校教育法等で、その果たすべき役割（使命）として、「障害のある幼児児童生徒の自立を図るための教育を行うことと、我が国の共生社会の形成に寄与すること」が示されている。一方、2022年9月9日に国連の権利委員会は、日本の「共生社会の形成」に関する現状について重大な懸念を表明し、改善勧告を出すに至った<sup>\*1</sup>。

このような状況下、本研究を推進した研究者らは、東京都立特別支援学校の校長として学校経営に携わった経験を有し、特別支援学校の果たすべき役割（使命）の履行に際しては、校長の学校経営方針が大きく影響することを強く認識してきた。

そこで、本研究においては、東京都立特別支援学校の校長が自らの学校経営方針を基に策定していると考えられる学校経営計画の分析を通して、その現状と課題を明らかにすることとした。

## 2 問題の所在

特別支援学校数は、障害者施策の充実などにより毎年増え続け、2023年現在、全国に1,178校が設置され、151,362人の幼児児童生徒が在籍している<sup>\*2</sup>。

Fig.1 特別支援学校数の推移

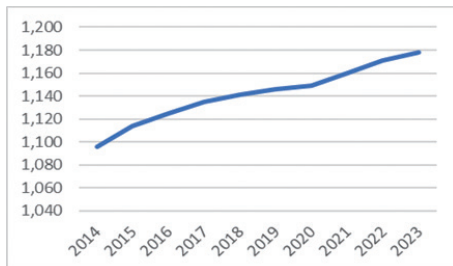
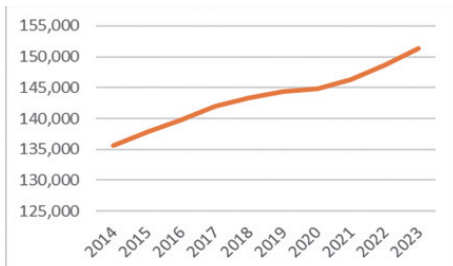
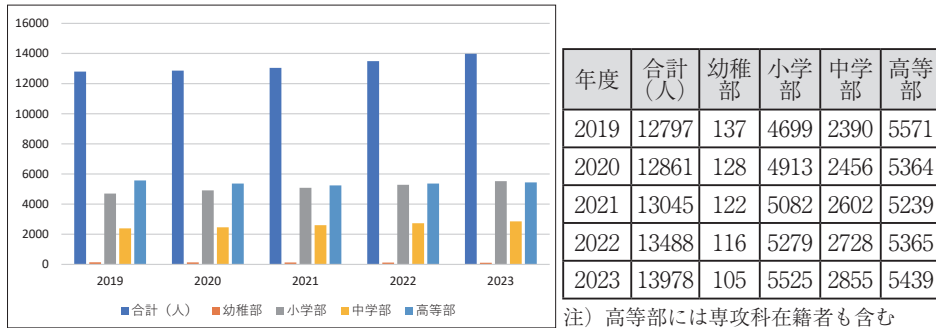


Fig.2 在籍者数の推移



学校数、在籍者数ともに過去最多を更新しており、少子化が進行する中、特別支援学校のニーズは、年々高まっている。東京都においては、2023年現在、71校が設置されており、その内訳は、国立4校、私立4校、区立5校、都立58校（設置条例可決により2023年10月に設置された1校を除く）となっている。また、在籍する幼児児童生徒数（国立と私立を除く）の過去5年間の推移は、以下のような状況である<sup>※2</sup>。

Fig.3 在籍者数の推移



このように、年々ニーズの高まっている特別支援学校の目的は、学校教育法第72条で「視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けること」と示されている<sup>※3</sup>。

併せて、我が国の障害のある幼児児童生徒に対する教育が、特殊教育から特別支援教育に転換した2007年4月1日に文部科学省から発出された「特別支援教育の推進について（通知）」では、特別支援教育の理念として、「特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものである。さらに、特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている」という内容が新たに示された<sup>※4</sup>。

このことから、特別支援学校の果たすべき役割（使命）は、障害のある幼児児童生徒の自立を図るための教育を行うことと、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまることなく、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成に寄与することにもあると捉えられる。したがって、その実現のためには、幼児児童生徒への働きかけと併せ、社会への働きかけが必要となる。したがって、校長が策定する学校経営計画は、特別支援学校の果たすべき役割（使命）の2つの側面（幼児児童生徒への働きかけと社会への働きかけ）を踏まえたものになっていなければならないと考える。しか

しながら、本研究を推進した研究者らは、東京都立特別支援学校の校長として学校経営に携わった経験を有するが、当時、「特別支援学校の果たすべき役割（使命）の2つの側面を十分に踏まえることができていなかったのではないか」という反省もあり、その現状を明らかにするとともに課題を整理することとした。

### 3 本研究の目的

これまで、特別支援学校の果たすべき役割（使命）と校長の学校経営方針の関連については、研究対象として扱われることが少なかった。よって、本研究は、各学校の学校経営計画を調査し、その現状と課題を明らかにすることを目的とする。

#### 【研究仮説】

東京都立特別支援学校の校長が策定する学校経営計画には、特別支援学校が果たすべき役割（使命）として、次の2つの側面が踏まえられている。

〈役割1〉「幼児児童生徒の自立を図るための教育を行うこと」 〈役割2〉「我が国の共生社会の形成に寄与すること」
--

しかし、我が国の共生社会の形成については、未だ課題が多く残っていることから、2つの側面（〈役割1〉と〈役割2〉）を学校経営計画に反映させる際、校長の選択・重点化において、問題点（割合の違い等）が存在するのではないか。

#### 【研究仮説に至った理由】

##### （1）校長に求められる資質の変化と学校経営方針の差

社会状況や子どもを取り巻く環境の変化に伴い、学校教育における課題が多様化した。そのため、学校経営者である校長に求められる資質も変化してきた。東京都では、2008年10月に「東京都教員育成基本方針（2015年2月一部改正）」を策定し、計画的な人材育成を図ってきた<sup>\*5</sup>。併せて、2013年5月に「学校管理職育成指針」を策定し、学校マネジメント能力の伸長を図ってきた。この変化は、教育公務員特例法等の一部を改正する法律の施行により、どの自治体においても同様の状況であった。

なお、学校マネジメントとは、「学校が抱える様々な課題を解決するために、校長のリーダーシップの下、学校組織を挙げて経営目標を達成していくための活動」と定義した<sup>\*6,7</sup>。

上記のように、校長に求められる資質が変化したことと併せて、学校経営における校長の権限は大幅に拡大された。これは、各自治体の教育委員会などからの権限移譲が進んだことを意味する。したがって、学校経営方針は、教育施策や教育課題に対する校長の選択・重点化の違いによって、差が生じやすい状況となったと考えられる。

## (2) 学校経営計画の位置付け

校長が学校経営を行う際、基本となるのは学校経営計画である。東京都においては、学校経営計画を「校長が学校のビジョンを明らかにし、全ての学校が長期・中期・短期的な展望に立ち、当該年度の学習指導、生活指導、進路指導、学校運営等の教育活動の具体的な目標と方策を設定するとともに、教職員全員がその具体的な目標に向かい協働体制を確立し、学校の自律的な改革と教育の質的な向上を図るために、策定するものである。また、学校経営計画は、学校が都民・保護者への説明責任を果たす手段となり、校長が自校の教育活動について都民・保護者に明らかにする公約の役割をもつものである」と位置付けている<sup>\*8.9</sup>。したがって、学校経営計画の内容を分析することで、校長が選択・重点化している「特別支援学校が果たすべき役割（使命）」の内容が明らかになると考えた。

## 4 研究の方法

本研究で明らかにしようとしているのは、東京都立特別支援学校の校長が選択・重点化している「特別支援学校が果たすべき役割（使命）」の内容であり、以下の2つの取り組みによって進めた。

### (1) 公表されている学校経営計画の内容の分析

東京都では、2002年11月に出された「学校経営計画策定検討委員会報告書」に基づいて、2003年度から全ての都立学校に学校経営計画を導入した。このことにより、全ての東京都立特別支援学校に学校経営計画が導入された。

現在、導入されている学校経営計画の作成手順は、3つのステップに分かれている。その具体的な手順は、次のとおりである<sup>\*9</sup>。

〈ステップ1〉校長が「目指す学校」（学校経営方針）の内容を明らかにする。  
 〈ステップ2〉「目指す学校」を実現するための「中期的目標と方策」を立案する。  
 〈ステップ3〉「中期的目標と方策」の達成に向けた「今年度の取組目標と方策」を立案する。

この作成手順から理解することができるが、校長が明確に示した「目指す学校」の内容は、「中期的目標と方策」、「今年度の取組目標と方策」の内容と整合性がとれたものとなるはずである。このことから、「目指す学校」の内容は、校長が考える学校経営方針の核となるものと考えた。そこで、学校経営計画に記載された「目指す学校」の内容について、グランデッド・セオリー・アプローチの手法を参考にコーディング・カテゴリー化を行い、校長が選択・重点化している「特別支援学校が果たすべき役割（使命）」の内容について分析し、〈役割1〉「幼児児童生徒の自立を図るための

教育を行うこと」と〈役割2〉「我が国の共生社会の形成に寄与すること」に関連する内容の割合について調べた<sup>\*10</sup>。

## (2) まとめと考察

(1)の取り組みによって明らかになった結果について、まとめるとともに「特別支援学校が果たすべき役割(使命)」の内容が、現状ではどのように学校経営計画に反映されているのかについて、研究仮説を踏まえて考察した。

なお、本研究で調査の対象とした学校経営計画は、現在、どの学校でも策定すべきものであり、サンプル数が容易に確保でき、なおかつ、校長の学校経営方針も明確に言語化されている。学校経営計画の記載内容について分析し、研究仮説を検証する本研究の手法は、類似するものがなく、学術的独自性と創造性があるものとする。

## 5 研究の結果

### (1) 調査対象校

本研究で調査対象とした学校は、東京都立特別支援学校の58校である。障害種別、設置学部については、学校によって違いがあるため、Fig.4にその内容をまとめた。

記載内容の分析に使用した学校経営計画(令和5年度)は、各学校のホームページから入手した。ただし、2校については、前年度のものが掲載されていたため、その内容を分析した<sup>\*11,12</sup>。

Fig.4 調査対象校

No.	障害種別					設置学部				
	視覚	聴覚	肢体	知的	病弱	幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科
1	○								○	○
2	○			○		○	○	○		
3	○					○	○	○		
4	○					○	○	○	○	○
5		○						○	○	
6		○				○	○			
7		○				○	○	○	○	○
8		○		○		○	○	○	○	○
9			○		○		○	○	○	
10			○				○	○	○	
11			○		○		○	○	○	
12			○	○			○	○	○	
13			○		○		○	○	○	
14			○	○			○	○	○	
15			○				○	○	○	
16			○	○			○	○	○	
17			○	○			○	○	○	
18			○				○	○	○	
19			○	○			○	○	○	

No.	障害種別					設置学部				
	視覚	聴覚	肢体	知的	病弱	幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科
20			○	○			○	○	○	
21			○	○			○	○	○	
22			○		○		○	○	○	
23			○				○	○	○	
24			○	○			○	○	○	
25			○	○			○	○	○	
26			○	○			○	○	○	
27				○					○	
28				○			○	○		
29				○			○	○	○	
30				○			○	○		
31				○					○	
32				○			○	○		
33				○			○	○		
34				○			○	○		
35				○					○	
36				○					○	
37				○			○	○	○	
38				○			○	○	○	
39				○			○	○		
40				○					○	
41				○			○	○		
42				○					○	
43				○					○	
44				○			○	○		
45				○					○	
46				○					○	
47				○			○	○		
48				○					○	
49				○	○		○	○	○	
50				○			○	○		
51				○			○	○	○	
52				○			○	○		
53				○			○	○		
54				○			○	○	○	
55				○					○	
56				○			○	○	○	
57				○			○	○	○	
58				○					○	

## (2) 学校経営計画に記載された「目指す学校」の内容の分析

各学校の学校経営計画に記載された「目指す学校」の文章について、コーディングし、複数のコードの特徴を研究者らで解釈した結果、Fig.5に示した64項目のサブカテゴリーに分類することができた。さらにそのサブカテゴリーは、本研究の目的を踏まえた形で、「教育内容」(43項目)、「共生社会」(3項目)、「運営方法」(18項目)の3つのカテゴリーに分類することができた。

分類したカテゴリー「教育内容」は、研究仮説の中で述べた、校長が策定する学校経営計画の中で踏まえられている、特別支援学校が果たすべき〈役割1〉「幼児児童生徒の自立を図るための教育を行うこと」に関連すると捉えた。また、「共生社会」は、〈役割2〉「我が国の共生社会の形成を寄与すること」に関連すると捉えた。「運営方法」は、研究仮説の中で述べた（〈役割1〉〈役割2〉）以外のものとして捉えた。

その上で、学校経営計画に記載された「目指す学校」の内容に占める各カテゴリーの数と割合を調べた結果、Fig.6に示した内容が明らかになった。

Fig.5 分類したカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー
教育内容 〈役割1〉	QOLの向上、SDGsの視点、きめ細かい指導、キャリア教育の推進・充実、主体性の尊重、ニーズに応じた教育、安全・安心の確保、意欲の育成、一貫性のある指導、一人一人を大切にされた教育、確かな学び、確かな学力、学力の向上、基礎・基本の重視、協働的な学び、健康の保持・増進、個に応じた教育・指導、個別最適な学び、幸福の追求、資質・能力の伸長、自己実現の支援、自立・社会参加の実現、質の高い教育、社会性の育成、主体性・積極性の育成、主体的な学び、授業の充実、授業の改善、障害に応じた教育、心身の健康、進路実現の支援、人格の完成、人間性の育成、人権の尊重、成長の支援、生きる力の育成、挑戦する力の育成、働く力の育成、特別支援教育の専門性、教職員の資質向上、発達の支援、豊かな生活の実現
共生社会 〈役割2〉	インクルーシブ教育システム構築、共生社会の実現、多様性の尊重
運営方法 〈その他〉	コンプライアンスの重視、開かれた学校、危機管理の徹底、教職員の協働、教職員の主体性、教職員の働き甲斐、社会の変化や進展に即した学校経営、情報発信、説明責任、地域・社会貢献、特別支援教育のセンター的機能、組織的な学校運営、地域資源の活用、地域との連携・協働、地域社会との信頼関係、保護者・地域等からの信頼、保護者・地域・関係機関との協働、保護者・地域・関係機関との連携

Fig.6 「目指す学校」の内容に占めるカテゴリーの数と割合

No.	教育内容(%)	共生社会(%)	運営方法(%)	教育内容(数)	共生社会(数)	運営方法(数)	計(数)
1	66.7%	11.1%	22.2%	6	1	2	9
2	50.0%	0.0%	50.0%	2	0	2	4
3	62.5%	12.5%	25.0%	5	1	2	8
4	75.0%	0.0%	25.0%	6	0	2	8
5	84.6%	0.0%	15.4%	11	0	2	13
6	75.0%	0.0%	25.0%	3	0	1	4
7	70.0%	0.0%	30.0%	7	0	3	10
8	75.0%	0.0%	25.0%	3	0	1	4
9	80.0%	20.0%	0.0%	4	1	0	5
10	57.1%	0.0%	42.9%	4	0	3	7

No.	教育内容(%)	共生社会(%)	運営方法(%)	教育内容(数)	共生社会(数)	運営方法(数)	計(数)
11	90.9%	0.0%	9.1%	10	0	1	11
12	81.8%	9.1%	9.1%	9	1	1	11
13	100.0%	0.0%	0.0%	5	0	0	5
14	100.0%	0.0%	0.0%	3	0	0	3
15	72.7%	9.1%	18.2%	8	1	2	11
16	50.0%	50.0%	0.0%	2	2	0	4
17	66.7%	16.7%	16.7%	4	1	1	6
18	60.0%	0.0%	40.0%	3	0	2	5
19	57.1%	7.1%	35.7%	8	1	5	14
20	100.0%	0.0%	0.0%	3	0	0	3
21	66.7%	11.1%	22.2%	6	1	2	9
22	100.0%	0.0%	0.0%	4	0	0	4
23	80.0%	20.0%	0.0%	4	1	0	5
24	42.9%	14.3%	42.9%	3	1	3	7
25	71.4%	0.0%	28.6%	5	0	2	7
26	100.0%	0.0%	0.0%	4	0	0	4
27	57.1%	0.0%	42.9%	4	0	3	7
28	41.7%	8.3%	50.0%	5	1	6	12
29	57.1%	0.0%	42.9%	4	0	3	7
30	80.0%	0.0%	20.0%	4	0	1	5
31	80.0%	0.0%	20.0%	8	0	2	10
32	57.1%	14.3%	28.6%	4	1	2	7
33	66.7%	0.0%	33.3%	4	0	2	6
34	57.1%	14.3%	28.6%	4	1	2	7
35	75.0%	0.0%	25.0%	6	0	2	8
36	100.0%	0.0%	0.0%	1	0	0	1
37	90.9%	0.0%	9.1%	10	0	1	11
38	83.3%	0.0%	16.7%	5	0	1	6
39	46.2%	7.7%	46.2%	6	1	6	13
40	85.7%	0.0%	14.3%	6	0	1	7
41	36.4%	18.2%	45.5%	4	2	5	11
42	66.7%	0.0%	33.3%	4	0	2	6
43	83.3%	0.0%	16.7%	5	0	1	6
44	100.0%	0.0%	0.0%	4	0	0	4
45	100.0%	0.0%	0.0%	4	0	0	4
46	75.0%	25.0%	0.0%	3	1	0	4
47	25.0%	0.0%	75.0%	1	0	3	4
48	75.0%	12.5%	12.5%	6	1	1	8
49	80.0%	20.0%	0.0%	4	1	0	5
50	50.0%	0.0%	50.0%	3	0	3	6
51	100.0%	0.0%	0.0%	6	0	0	6
52	71.4%	0.0%	28.6%	5	0	2	7
53	100.0%	0.0%	0.0%	5	0	0	5
54	75.0%	0.0%	25.0%	3	0	1	4
55	57.1%	0.0%	42.9%	4	0	3	7
56	66.7%	0.0%	33.3%	2	0	1	3
57	100.0%	0.0%	0.0%	4	0	0	4
58	100.0%	0.0%	0.0%	1	0	0	1
平均	73.7%	5.2%	21.1%	4.7	0.4	1.6	6.6



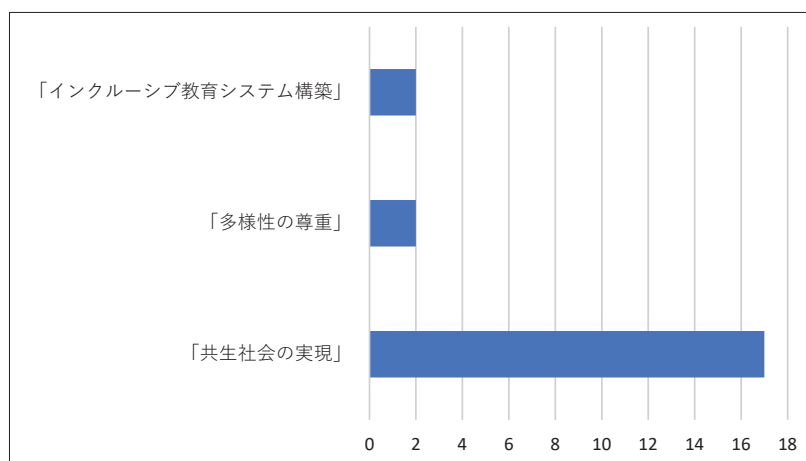
さらに、カテゴリ「共生社会」に関する記載が確認された学校のデータをピックアップして再集計を行い、「目指す学校」の内容に占める各カテゴリの数と割合を調べた結果、Fig.7に示した状況が明らかになった。

Fig.7 カテゴリの数と割合（再集計後）

No.	教育内容(%)	共生社会(%)	運営方法(%)	教育内容(数)	共生社会(数)	運営方法(数)	計(数)
1	66.7%	11.1%	22.2%	6	1	2	9
3	62.5%	12.5%	25.0%	5	1	2	8
9	80.0%	20.0%	0.0%	4	1	0	5
12	81.8%	9.1%	9.1%	9	1	1	11
15	72.7%	9.1%	18.2%	8	1	2	11
16	50.0%	50.0%	0.0%	2	2	0	4
17	66.7%	16.7%	16.7%	4	1	1	6
19	57.1%	7.1%	35.7%	8	1	5	14
21	66.7%	11.1%	22.2%	6	1	2	9
23	80.0%	20.0%	0.0%	4	1	0	5
24	42.9%	14.3%	42.9%	3	1	3	7
28	41.7%	8.3%	50.0%	5	1	6	12
32	57.1%	14.3%	28.6%	4	1	2	7
34	57.1%	14.3%	28.6%	4	1	2	7
39	46.2%	7.7%	46.2%	6	1	6	13
41	36.4%	18.2%	45.5%	4	2	5	11
46	75.0%	25.0%	0.0%	3	1	0	4
48	75.0%	12.5%	12.5%	6	1	1	8
49	80.0%	20.0%	0.0%	4	1	0	5
平均	62.9%	15.9%	21.2%	5.0	1.1	2.1	8.2

併せて、Fig.7におけるカテゴリ「共生社会」に関する記載について、サブカテゴリの該当数も調べた結果、Fig.8に示した状況が明らかになった。

Fig.8 サブカテゴリ該当数



## 6 考察

### (1) 本研究の結果のまとめ

学校経営計画に記載された「目指す学校」の内容を分析すると、カテゴリー「教育内容」に関する記載の割合が最も多く、平均で73.7%であった。一方、「共生社会」に関する記載の割合は、平均で5.2%にとどまった。このことから、東京都立特別支援学校の校長が策定した学校経営計画において、特別支援学校が果たすべき〈役割2〉「我が国の共生社会の形成を寄与すること」に関する記載内容の割合が、極めて少ない実態が明らかになった。

また、「共生社会」に関する記載のあった学校は19校で、全体の32.8%であった。さらに、「共生社会」に関する記載のあった学校のデータをピックアップして再集計を行い、各カテゴリーの割合について確認した。その結果、「共生社会」に関する記載の割合は、平均で15.9%であった。このことから、「共生社会」に関する記載のあった学校においても、その割合が多くないといった実態も明らかになった。併せて、サブカテゴリーの該当数に着目したが、「インクルーシブ教育システム構築」や「多様性の尊重」といった具体的な内容についての記載は少なく、「共生社会の実現」といった総括的な内容が大多数であった。

以上のことから、特別支援学校の果たすべき役割（使命）については、2つの側面（〈役割1〉と〈役割2〉）を学校経営計画に反映させる際に、その割合に大きな差が見られる問題点があり、研究仮説を裏付ける結果となった。

一方で、研究仮説の中で述べた2つの側面（〈役割1〉と〈役割2〉）以外のものとして捉えたカテゴリー「運営方法」に関する記載の割合は、平均で21.1%であった。これは、「共生社会」よりも15.9%多く、注目に値する結果であった。

研究者らは、各サブカテゴリーの内容を比較検討し、「教育内容」と「共生社会」については、校長が「目指す学校」の内容として選択・重点化した際には、目的としての意味合いが強いと考えた。それに対し、「運営方法」については、目的を達成するための手段としての意味合いが強いのではないかと考えた。本来、「目指す学校」の内容には、目的を記載すべきことから、この結果に関しても大きな問題点が存在すると捉えた。

### (2) 本研究の限界と今後の課題

本研究では、東京都立特別支援学校58校の学校経営計画の内容を分析し、研究仮説を検証する手法をとった。各学校経営計画は、ホームページで公表されたものを使用したため、策定時における各校長の思考の過程（選択・重点化）については検討されていない。校長としての経験年数、当該校における在任期間、学校の障害種別、設置された学部など、様々な要素が思考の過程に影響したであろうことが予測されることから、アンケート調査やインタビュー調査などを実施し、今回の研究において、「共

生社会」に関する記載のあったケースと記載のなかったケースの違いについて、その要因を明らかにすることが必要と考える。併せて、カテゴリ「運営方法」に関する記載のあったケースについては、理由や背景などについても、その実態を明らかにしたいと考える。

### (3) 学校経営計画策定への示唆

本研究で明らかになったこととして、〈役割2〉「我が国の共生社会の形成に寄与すること」は、学校経営計画に記載された「目指す学校」の内容に反映されにくい問題点があった。冒頭でも述べたように、我が国の特別支援学校は、その存在意義が顕著に高まっており、学校教育法等で、その果たすべき役割（使命）が明確に示されている。研究者らは、各学校がそのような役割（使命）を果たすためには、「特別支援教育の理念」と「学校経営計画の意義」を再考することが重要であると考ええる。

また、「目指す学校」の内容に、カテゴリ「運営方法」に関するものが20%以上占められていた問題点もあった。近年、公立学校においても、民間企業におけるマネジメント手法にならい、組織目標を達成するための教職員の意識改革に焦点を当てた学校改革が進められてきた。併せて、学校現場における服務事故が大きく報道されるなど、コンプライアンスの重視や危機管理の徹底等が学校経営上の喫緊の課題となってきた。このことから、校長が「目指す学校」の内容に「運営方法」に関するものを入れざるを得ない状況もあったのではないかと推測する。

しかし、それらは、あくまでも目的を達成するための手段という意味合いが強く、その「手段」が目的化されてしまった場合には、本来、学校が果たすべき役割（使命）とは趣旨が異なるものになってしまう危険性があると考ええる。このことから、学校経営計画を策定する際には、「目的」と「手段」の扱い方についても留意することが必要であると考ええる。

## 謝辞

この度、本研究の機会を与えていただいた関係者の皆様に、心より感謝を申し上げます。また、研究をまとめる際に助言をいただきました、本学教職大学院教職研究科の山崎めぐみ先生に、心より御礼申し上げます。

## 引用・参考資料

- 1 文部科学省「障害者権利条約対日審査について」（通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議：第4回会議資料，2022年）  
[https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2019/09/1421377\\_00024.html](https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2019/09/1421377_00024.html)  
(閲覧日2023年11月)

- 2 文部科学省「学校基本調査—結果の概要」2014年～2023年  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/1268046.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/1268046.htm)  
(閲覧日2023年12月)
- 3 学校教育法第72条
- 4 文部科学省「特別支援教育の推進について（通知）」2007年
- 5 東京都教育委員会「東京都教員育成基本方針（一部改正版）」2015年
- 6 東京都教育委員会「学校管理職育成指針」2013年
- 7 東京都立特別支援学校長会「校長必携〔第2編〕校長の使命の伝承」2023年
- 8 東京都教育委員会「都立学校における学校経営計画及び学校経営報告の策定等に関する要領」2023年
- 9 都立学校経営支援委員会「都立学校の自己評価指針（改訂版）」2010年
- 10 木下康仁著 グランデッド・セオリー・アプローチ質的実証研究の再生, 弘文堂, 2016年
- 11 東京都教育委員会ホームページ「都立特別支援学校検索」  
[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/static/special\\_needs\\_school/index.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/static/special_needs_school/index.html)  
(閲覧日2023年11月)
- 12 東京都立特別支援学校ホームページ  
<https://bunkyo-sb.metro.ed.jp/> 他57校  
(閲覧日2023年11月)

# **Analysis of Special Needs School Management Plans Developed by Principals in Tokyo Metropolitan:**

## **Current Status and Identified Issues**

**Shougo HORIUCHI      Toshihisa YAMAUCHI**

In recent years, there has been a noticeable increase in the number of special-needs schools and enrolled students in Japan, signifying the growing significance of these institutions in Japanese society. The essential roles, or mission, of special-needs schools are explicitly outlined in the School Education Law and other pertinent legislation. These roles include “providing education to foster the independence of students with disabilities” and actively “working toward an inclusive society in Japan.”

On September 9, 2022, the UN Committee on the Rights of Persons with Disabilities expressed concerns about Japan’s current progress in “working toward an inclusive society” and issued recommendations for improvement. This paper delves into the analysis of school management plans formulated by principals at special-needs schools in the Tokyo Metropolitan area. The objective is to scrutinize the extent to which the contents align with the specified “roles (mission) of special-needs schools,” particularly in (1) providing education that fosters independence for students with disabilities and (2) contributing toward an inclusive society in Japan – responsibilities acknowledged by the principals.

The analysis brought to light that the percentage of statements related to “contributing towards an inclusive society in Japan” was remarkably low. This finding underscores the need for increased awareness among principals at Japanese special-needs schools regarding their mission of “contributing to an inclusive society.” This crucial aspect should be more prominently incorporated into their school management plans to ensure alignment with their roles and responsibilities.

